

秋田県の運動部活動の現状と課題
— 運動部活動調査から —

秋田県立秋田西高等学校
小 松 和 幸

1 はじめに

スポーツを秋田の活力と発展のシンボルとし、スポーツを通じた秋田の元気づくりと地域の活性化、生涯を通じた豊かなスポーツライフづくり、競技力の向上など、スポーツ振興を県民運動として展開するとともに、スポーツ王国復活に向けた取り組みを強化するため、平成21年9月2日に「スポーツ立県あきた」を宣言した。現在「スポーツ立県あきた」推進のためにさまざまな施策を考え取り組んでいる。しかしながら運動部活動については、活動加入率は若干ではあるが増加傾向にあるものの加入生徒数は少子化等の影響で減少しているのが現状である。秋田県のスポーツ振興において高校生運動部活動への期待は非常に大きい。国体においても少年種目の得点がほとんどを占めている。また、近年の少子化による生徒減により、部員数が減少し、運動部活動が成り立たなくなってきたことも事実である。このことは部活動の活性化のみならず本県の競技力向上に関わる重要な問題である。数少ない生徒の中から1人でも多く運動部活動に関わってもらうためにはどのような方法があるか、現在の生徒が運動部活動についてどのような考えを持っているのか、小・中学校で活動していたスポーツ活動をいかに高校入学後も継続して活動することができるのかを調査分析し、今後の運動部活動活性化や競技力向上のために何らかの対策を見出すことができないものかという思いから研究を行うことにした。

そこで、本研究ではスポーツ立県あきた推進計画や秋田県教育委員会の学校体育・健康教育資料集を基に中・高校生の運動部活動の活動実態や意識に関するアンケート調査を行うとともに本県で行われている選手発掘事業や普及活動の取り組みを紹介しながら研究を進めた。本県のスポーツの現状や課題を明確にすることで部活動の活性化をはじめ競技力向上に繋がるものと考ええる。

【秋田県の高校生徒数推移：表1】

(全日制)

年度	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25
男子	17,909	17,464	16,958	16,363	15,600	15,107	14,764	14,632	14,300	13,994	13,495
女子	17,709	17,082	16,514	15,744	15,247	14,847	14,513	14,490	14,029	13,845	13,326
合計	35,618	34,546	33,472	32,107	30,847	29,954	29,277	29,122	28,329	27,839	26,821

※秋田県学校統計から

【運動部活動加入率（高校男子）：表2】

(%)

H3	H4	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17
49.6	51.6	50.6	51.8	51.7	50.3	50.2	48.8	48.5	49.8	52.3	54.7	58.0	59.9	61.7
H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25							
62.8	63.8	64.7	64.9	60.3	63.6	66.3	69.1							

※秋田県の学校体育・健康教育資料集から

【運動部活動加入率（高校女子）：表3】

(%)

H3	H4	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17
21.8	27.4	28.3	29.2	28.0	28.8	28.5	28.2	27.3	27.0	28.6	29.3	31.3	32.1	28.5
H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25							
30.1	29.0	32.1	29.6	28.2	29.1	30.1	31.8							

※秋田県の学校体育・健康教育資料集から

2 調査の方法

- (1) 方法：質問紙によるアンケート調査（無記名方式）
- (2) 実施時期：平成24年1月～2月
- (3) 対象者：県内の高校1～2年生男女
- (4) 回答数：依頼数 1,500 回収数 1,239

3 結果と分析

本県の生徒数は、ここ10年間で9,000人近く減少している。(表1) この中で表2・表3の部活動加入率は大きな変化を示していないものの若干の増加がみられる。しかしながら運動部活動人数は、確実に減少している。

表4 (H19年度)

中学校運動部活動種目別ベスト10					
順位	種目	実施校	男子	女子	合計
1	軟式野球	144	4,329	61	4,390
2	バスケットボール	177	1,703	1,883	3,586
3	ソフトテニス	128	1,553	1,549	3,102
4	卓球	161	1,600	1,079	2,679
5	陸上競技	135	1,309	1,116	2,425
6	バレーボール	132	328	2,005	2,333
7	サッカー	50	1,104	21	1,125
8	剣道	116	670	289	959
9	柔道	104	654	161	815
10	ソフトボール	27	63	508	571

(H25年度)

中学校運動部活動種目別ベスト10					
順位	種目	実施校	男子	女子	合計
1	軟式野球	134	3,605	15	3,620
2	バスケットボール	159	1,529	1,520	3,049
3	ソフトテニス	122	1,254	1,273	2,527
4	陸上競技	131	1,234	1,075	2,309
5	卓球	149	1,218	807	2,025
6	バレーボール	113	270	1,351	1,621
7	サッカー	43	958	14	974
8	剣道	112	501	293	794
9	柔道	90	416	115	531
10	水泳	47	225	149	374

表5 (H19年度)

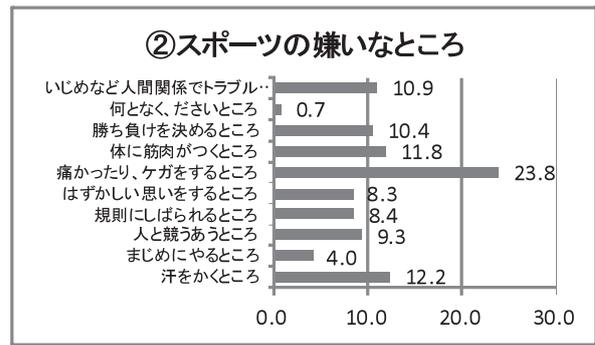
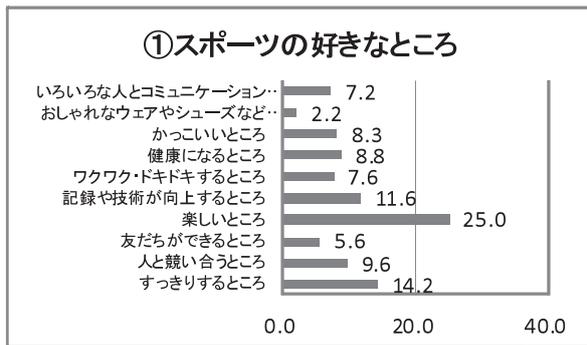
高等学校運動部活動種目別ベスト10					
順位	種目	実施校	男子	女子	合計
1	硬式野球	50	2,047	0	2,047
2	バスケットボール	72	1,031	547	1,578
3	陸上競技	102	887	541	1,428
4	ソフトテニス	84	765	556	1,321
5	バレーボール	68	401	587	988
6	サッカー	38	960	21	981
7	卓球	92	651	328	979
8	バドミントン	55	458	421	879
9	剣道	70	383	289	564
10	弓道	35	254	297	551

(H25年度)

高等学校運動部活動種目別ベスト10					
順位	種目	実施校	男子	女子	合計
1	硬式野球	49	1,894	0	1,894
2	バスケットボール	70	970	547	1,517
3	陸上競技	93	897	512	1,409
4	サッカー	38	948	71	1,019
5	ソフトテニス	75	601	417	1,018
6	バレーボール	58	327	496	823
7	バドミントン	52	472	306	778
8	卓球	84	530	238	768
9	弓道	39	274	310	584
10	剣道	64	289	157	446

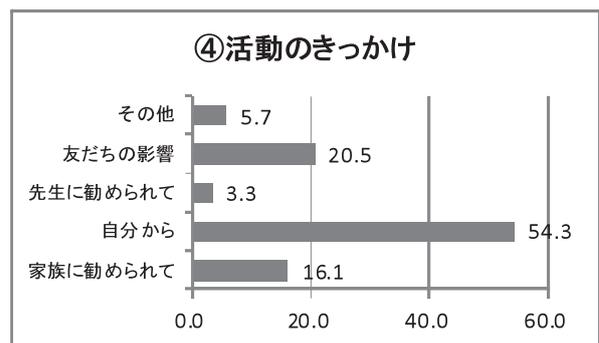
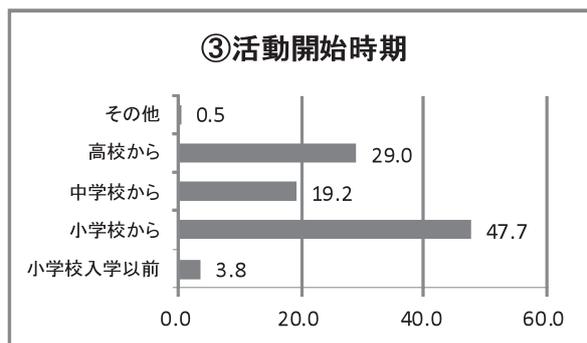
※秋田県の学校体育・健康教育資料集から

上の表は、平成19年度と平成25年度学校体育調査から中学校・高等学校における部活動加入数の種目別上位10種目を抜粋した表である。表4の中学校では軟式野球、バスケットボール、ソフトテニスが人気の種目となっている。上位10種目のほとんどが、小学校のスポーツ少年団で実施されている種目の影響を受けて継続的に中学校でも実施しているものと推測される。表5の高校入学後は、硬式野球、バスケットボール、陸上競技が上位を占めている。男子については、硬式野球が群を抜いてトップである。しかしながら全ての種目で活動人数が顕著に減少しているのがわかる。ただし、バスケットボール女子、陸上競技男子、サッカー男子、弓道男女については、横ばいかもしくは増加していることが表から読み取れる。このようなことからアンケート調査を実施して現在の高校生は、スポーツに対してどのような考えを持っているのか、どのような理由で継続して活動をしているのか、運動部活動に加入しない理由は何なのかを詳しく調査したものが次からの項目になる。



【スポーツの好きなおとこと嫌いなおとこ】

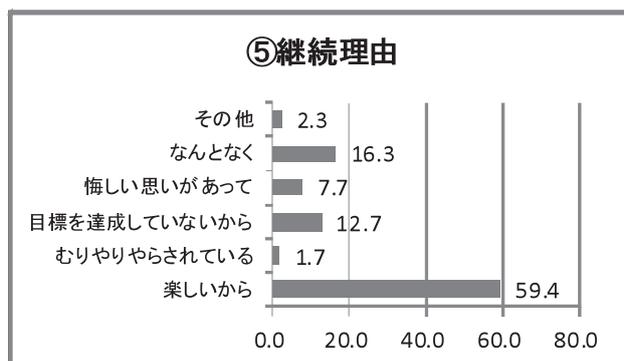
①の好きなおとこの項目をみると「楽しいところ」が全体の25%を占めて最も多く、次いで「すっきりするところ」「健康になるところ」などの健康志向を反映しているのが全体の23%を占めている。また、「記録や技術が向上するところ」「人と競うあところ」などの競技力向上に関するものが全体の21%を占めている。また、②の嫌いなおとこの項目をみると「痛かったり、怪我をするところ」が、全体の24%近くを占めている。「汗をかくところ」「体に筋肉がつくところ」なども全体の24%を占めている。「いじめなど人間関係でトラブルになるところ」が、全体の11%近くを占めているのが気になりである。したがってスポーツは、楽しく行うことができ怪我や痛みなどを伴わない種目を選ぶ傾向にあると考える。



【現在活動している運動の活動時期と活動のきっかけ】

③の活動開始時期の項目をみると、「小学校から」が全体の50%近くで最も多く、次いで「高校から」29.0%「中学校から」19.2%と続いている。続いて④の活動のきっかけでは、「自分から」54.3%が最も多かったが「友だちの影響」20.5%「家族に勧められて」16.1%が続いている。このことから、スポーツ少年団で行った運動が継続して行われていることがわかる。また、高校から新しい運動部活動を行っている生徒が3割程度いることがわかった。

【現在の活動を継続している理由】

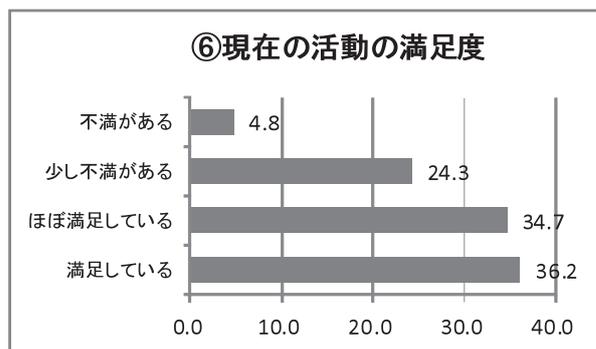


⑤の継続理由の項目をみてみると「楽しいから」59.4%が最も多く、次いで「なんとなく」16.3%で次いで「目標を達成していないから」12.7%「悔しい思いがあって」7.7%となっている。

このことから運動活動は、楽しいことが継続できる条件の1つであると考えられることができる。また、少なからずも目標を達成できなかったり、自分が思うような結果が出なくて悔しい思いを持っていることが運動を継続している要因の1つと考えられる。

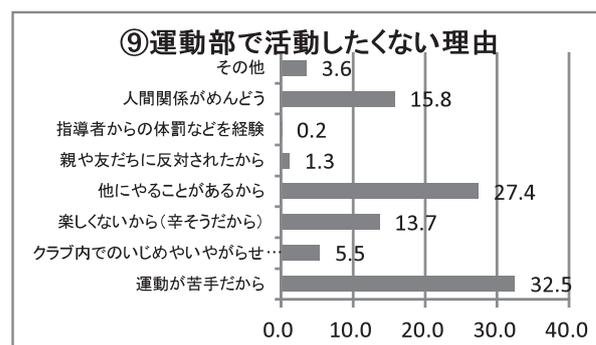
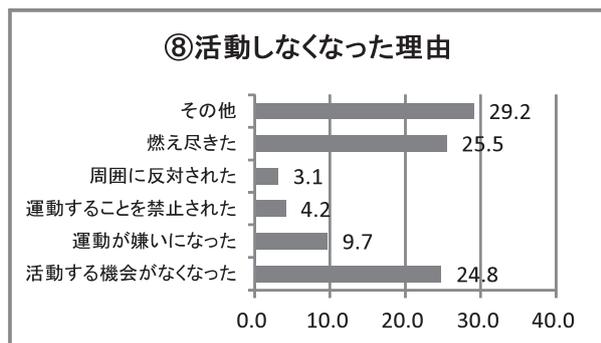
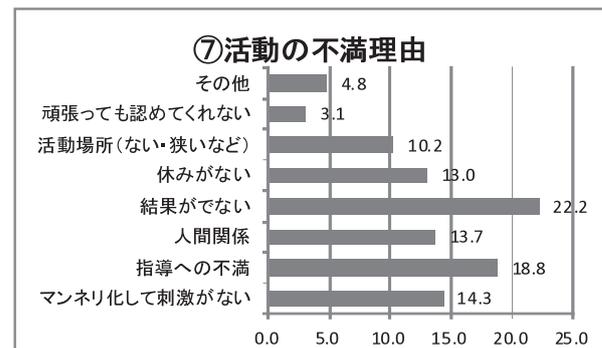
【現在行っている活動（運動）の満足度】

⑥の活動満足度の項目をみると「満足している」36.2%次いで「ほぼ満足している」34.7%と7割の生徒が満足していることがわかる。続いて「少し不満がある」24.3%「不満がある」4.8%と3割近い生徒が、何らかの不満を抱えながら活動していることがわかる。この理由が、明らかになれば継続的に活動を行うことができるのではないかと考えられる。



【活動の不満理由】

⑦の不満理由の項目をみると「結果がでない」22.2%と最も多く、「指導への不満」18.8%「マンネリ化して刺激がない」14.3%と続いている。次に「人間関係」13.7%「休みがない」13.0%が続いている。このことは、苦しい練習に耐えて結果を出すことによって楽しみが増して更なるステップアップに繋がると考えることができる。また、指導への不満をなくすためにも常に指導者側も指導方法を模索して生徒に接していかなければならないと考える。



【活動しなくなった理由・活動したくない理由】

⑧の運動部活動で活動していない生徒の理由項目をみると「その他」が29.2%と最も多く、その内訳は「他のことをやりたい」「遊びたい」であった。次に「燃え尽きた」25.5%が多く「活動する機会がなくなった」24.8%が続いている。また、活動していない生徒に運動部で活動したくない理由の項目をみると「運動が苦手だから」32.5%が最も多く「他にやることがある」27.4%「人間関係がめんどう」15.8%となっている。このことは、活動しなくなった理由・活動したくない理由とも「他にやることがある」が高いことがわかる。

4 アンケート調査のまとめ

- スポーツは、安全で楽しんで痛みの少ない種目を選択する方向性がみられる。汗をかいたらすぐ拭くことができるなど泥臭く汚れるスポーツよりもスマートで清潔な活動を求めていることがうかがえる。また、競技者人口減少種目や不人気種目などは、メディアを上手に利用して清潔感や爽快感などを伝えることで人気を取り戻す1つのきっかけになると推測される。
- 現在の運動部活動実施者は、小学校から始めて現在も活動している生徒が多く、この時期に運動に接する機会を与えることが重要なことだと推測できる。各県の各競技団体においてもさまざまな普及活動が行われているものと思われるが、アンケート結果にあるように活動を継続する上でも指導者は、この時期スポーツの楽しさやおもしろさを伝えていく重大な責務を持っているものとする。

- (3) 3割以上の生徒が現在の活動に不満を持って活動しているのがみられる。その理由の中で結果がでない理由や指導への不満を持っている生徒が7割近くいる。このことは、指導する我々にとって非常に深刻な問題と捉えなければいけないと考える。今後、ますます指導者は、指導者としての資質や指導内容の充実を目指して研修など研磨して行かなければいけないと考える。
- (4) 運動部活動を行っていた生徒が、活動しなくなった理由の中に「燃え尽きた」理由がみられたが、指導する立場の者が熱心さのあまりハードな練習になりすぎたことが原因と推測できる。また、「活動する機会がなくなった」理由がみられたが、スポーツ少年団で活動した種目が中学校では活動種目になかったりすることが原因とみられる。今後、生徒数が減少する本県にとっては、深刻な問題になっていくに違いない。

5 本県の普及活動と中学生強化指定制度

本県では、各競技団体がそれぞれの普及プログラムを持って活動している。

(1) 陸上競技

県内各地区に小学生を対象とした陸上競技クラブが、大小12クラブがあり、4月から11月まで毎週土曜日の午前中に2時間程度の練習を行っている。また、普及事業として秋田陸上競技協会が合同練習会や小学生駅伝競走大会、秋田県選手権大会において小学生の部を取り入れた記録会などを実施し、普及・育成に努めている。

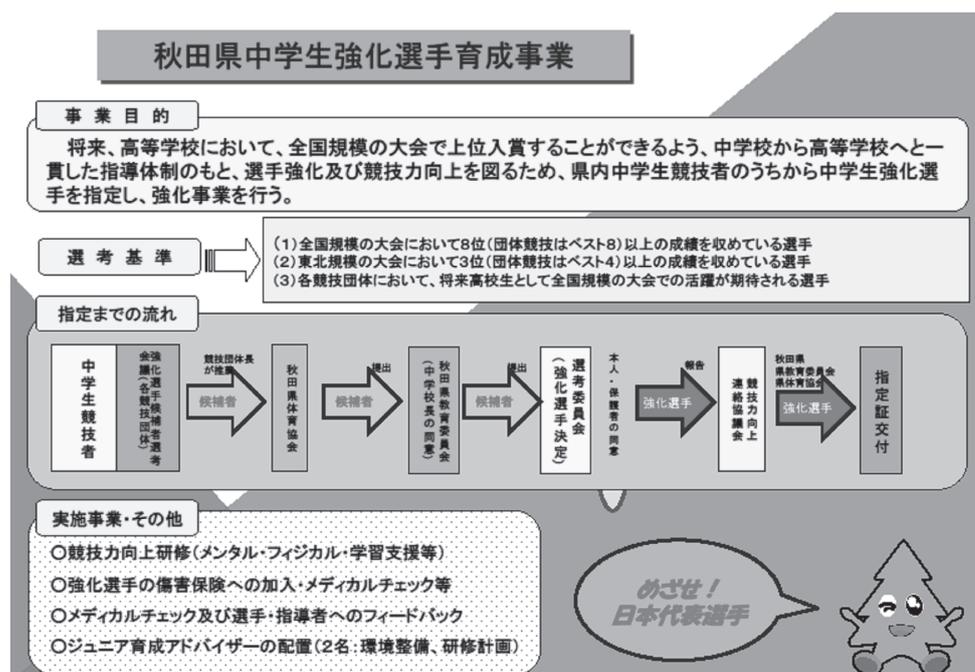
(2) ソフトテニス

10歳以下のゴールデンエイジと呼ばれる子どもたちの身体や神経回路の発達具合を考慮した指導プログラムにより、短いジュニア用ラケットやスポンジボールを使って就学前（4歳児）の子どもから実施をしている。そのほとんどが継続して同じスポーツを選んでいることに着目し、ソフトテニスを楽しんでいると思ってもらうことを目的にスポーツ少年団やクラブチームなども巻き込んで日本ソフトテニス連盟や実業団のスタッフに講師を依頼し実施している。

(3) 秋田県ライフル射撃協会

会長自らが各施設へ体験キットを持ち込み、小学生・保護者等への体験教室を開催し、地道な普及活動を継続してきた結果、現在は練習拠点を固定し、毎週決まった曜日に強化練習を開催するまでに至った。強化練習へは、毎回10名程の参加者が集まり、夕方から夜遅くまで練習に励んでいる。この3年間で、普及活動から強化練習の定期開催までに至た。

このように各協会が独自に普及・育成活動を行っているが、今年度から秋田県体育協会が各協会の普及活動を調査し取りまとめをしている。これにより各競技団体の普及事業が、なお一層活性化され一貫した指導法の確立されることを期待したい。また、平成23年度から秋田県中学生強化指定制度を取り入れて現在も活動中である。



この制度は、秋田県、秋田県教育委員会、秋田県体育協会の3者連名による指定であり、将来全国規模の大会で上位入賞することが出来るよう、競技団体等が主催する高校生との合同練習・合宿に参加したり、教育プログラム合宿（マナー・栄養指導、学習支援）への参加、医科学サポートなどを受けることができる制度である。平成23年度から実施され現在6期までの中学生強化選手が任命されている。バレーボール58名、剣道57名、柔道55名、サッカー45名等が多く任命されている。普及から強化まで一貫した指導をすることで、今後の本県の競技力向上や活性化に繋がるものと期待しているところである。

6 ま と め

本県の生徒数は、今後急激に減少していくことは確実である。この問題は、大会に出場したくてもチームメンバーが足りない自分の行いたい種目が無いなど、子どもたちの多様なニーズに応えることや可能性を広げていくチャンスを潰すことにもなりかねない。様々なスポーツに触れる環境や自分に合ったスポーツができる環境を整えていくことが本県の重要な課題と考える。急激に少子化が進む本県が抱える課題は深刻であり、将来を見据えた対策を講じることは急務である。現状では、各競技団体が中心に育成・普及事業を行っている。また、他県

や他競技からの引き抜きなどが行われていることも聞かれる。今後、生徒数が減少する本県で全競技を一本化し、育成・普及事業を行いそれぞれの種目に適した子どもを発掘し、各競技や種目にトランスファーしていくなどの方策を取り入れるなどの考えも必要と思われる。また、子どもたちにとって指導者は、スポーツの好き嫌いを左右したり、継続の有無を左右する重要な責務を持っているものとする。そのため適材適所に指導者を配置したり、指導体制を整えたり、研修等で指導者育成を行うことがスポーツ人口の増加やスポーツ継続者の増加に繋がるものとする。

今後、秋田県、秋田県教育委員会、秋田県体育協会の3者が主導となって本県の抱える問題を解決して行くことが重要である。また、各競技団体・高体連・中体連・スポーツ少年団が連携をとりながら普及・強化に努めていくことが本県の運動部活動の活性化そして競技力向上に繋がるものとする。

【参考文献および資料】

- 1 秋田県スポーツ振興計画
- 2 秋田県学校統計
- 3 秋田県の学校体育・健康教育資料集
- 4 秋田県体育協会中学生強化選手指定制度要綱

